

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 1/3

第1問

5 10 15 20 25 30

5 ゲルマン人の侵入で打撃を受けた西ローマ帝国が5世紀後半に滅亡し、旧領にはゲルマン諸国家が分立した。フランク王国の創始者クローヴィスが正統教義のアタナシウス派に改宗し、ローマ系住民を取り込む一方、ローマ教会は教皇グレゴリウス1世のゲルマン布教などで影響力を拡大した。東ローマ帝国は、6世紀に北アフリカのヴァンダルやイタリアの東ゴートといったアリウス派国家を征服したが、まもなく西地中海から後退し、7世紀に成立したイスラーム勢力にシリア・エジプトを奪われ、バルカン半島はスラヴ人などが移住して領土が縮小した。イスラーム勢力は、ジズヤ支払いを条件に、キリスト教世界で抑圧された人々の支持を得て拡大し、北アフリカを征服して8世紀にはイベリア半島の西ゴート王国を滅ぼした。

10 聖像画の崇拝をめぐり東西教会の分裂が決定的となると、ローマ教会は、イスラームの北上を阻止したフランク王国に接近し、西ヨーロッパ主要部を統一したカール大帝への戴冠を行い、ラテン語を権威とするカトリック文化圏が自立した。イスラーム世界では、マフラーにジズヤを課したウマイヤ朝をアッバース朝が倒し、アラビア語を公用語にムスリムの平等を原則とするイスラーム文化圏が実現した。東ローマ帝国では、バルカン半島に南下したブルガール人やスラヴ人への布教を進め、コンスタンティノーブル教会中心に

15 ギリシア語を公用語とする正教文化圏が形成されていった。

20

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 2/3

第2問

5 10 15 20 25 30

- (1)
- (a) 貨幣経済の浸透をうけ従来の生産物地代に加え貨幣地代が普及し、余剰の生産物や貨幣を蓄える農民が登場した。また寒冷化・黒死病に伴い労働人口が減少すると、領主は農民の待遇を改善させた。
- 5 (b) 農民への土地分与は有償であり、購入資金は政府が有利子で融資した。また土地は個人ではなく農村共同体ミールに帰属し分与地も狭かったため、農民の多くは領主の土地で労働を余儀なくされた。
- (2)
- (a) ホセ=リサール
- 10 (b) スペイン王政からの独立を求め革命が始まり、米西戦争の際にアギナルドが独立運動を展開し、憲法を制定してフィリピン共和国の独立を宣言した。しかし同戦争でフィリピンを獲得したアメリカ合衆国は独立を認めず、フィリピンとの戦争の末に領有を確定した。
- (3)
- 15 (a) アパルトヘイト
- (b) 白人政権による人種隔離政策で、非白人の選挙権剥奪、黒人の市民権剥奪などを規定した。国際連合を含む国際的な非難・経済制裁や、アフリカ民族会議による抵抗が撤廃の背景となった。

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 3/3

第3問

5 10 15 20 25 30

- | | |
|----|--------------|
| | (1) 安史の乱 |
| | (2) 両シチリア王国 |
| | (3) ガズナ朝 |
| | (4) メステーン |
| 5 | (5) 鄭成功 |
| | (6) ナポレオン |
| | (7) マオリ |
| | (8) ジャガイモ飢饉 |
| | (9) 大韓民国臨時政府 |
| 10 | (10) ベルリンの壁 |